中国・南昌市への青年訪問団派遣事業　事後報告書

◆学校名と名前：　高松大学　荒牧杏佳

江西省及び南昌市に滞在中の様子（写真を含む）や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。（１，０００字程度

２日目の南昌・高松日中友好会館では、入り口で南昌・中国と友好都市を結んでいる各国の都市の首長の映像とともに南昌の映像を拝見させて頂いた。中では、高松と南昌が友好都市を結ぶにあたっての歴史や、友好都市としての交流の様子を写真や映像を懇切丁寧に説明して下さった。

南昌・高松日中友好会館の中には、高松以外の様々な国の友好都市との交流の概要が展示されている友好都市ホール、南昌の産業を支えるVRを体験ができるホール、日本語教室、和室や日本文化の体験部屋などがある。１時間という短い時間だったが、友好都市としての歴史や交流の記録を見て後の世代に伝え、この交流を途絶えさせてはいけないと強く感じた。

３日目の中国VR産業基地は南昌市だけでなく中国を支える産業であり、VR産業で100軒以上の会社を迎えている。中国VR産業基地は世界の屋内VRテーマパークでも最も規模の大きい施設である。また、「競技」「南昌」「夢を探す旅」「幻の時空」などのテーマがあり、他の青年訪問団の方などと１階から４階までの広い施設内を体験した。

最も印象的だったのはブランコ型になっているアトラクションで、ジャングルを探検するものだ。他の方が体験しているのを見ていても、ブランコが1～2m上下するだけのように見えたが驚く声が他のアトラクションと比べても大きかった。実際に体験してみると、10m以上落ちている感覚があったり、前後にも揺れていたりするようにも感じてとても怖かった。

４目の景徳鎮中国陶磁器博物館は、国内初の大型陶磁器専門博物館であり、国家１級博物館である。館内では、説明を受けながら進み、時代ごとの歴史的背景がある陶磁器の歴史を学んだ。時代が進むにつれ、大きさや形の細かさ、色使いが増えるなど変化を見ることができた。

全ての陶磁器が芸術的で美しかったが特に、北京オリンピックが開催された際に作成されたオリンピックスポーツピクトグラムが印象的だった。ひとつひとつがすべて高品質の磁器粘土で手作りされている。それらすべてが美しく、オリンピックを通して世界に陶磁器の文化を広く伝えることができたのではないかと考える。

現代的な陶磁器はより精巧な作りで初めに見たときは、陶磁器の花瓶に花が生けられているのかと思ったが、生花だと思っていたものは陶磁器で作られていた。濃淡がとても「リアル」で素敵だった。

南昌市や景徳鎮市で過ごした１週間を通して、一生かけても体験しきれない様々な貴重なことばかりを学ぶことができた。中国と日本の違いや、一方で似た文化、中国から伝わった文化など、自分が住む身近にも中国との関わりがあることを強く感じることができた。